

## 平成27年度 第2回 熊野大花火大会交通円滑化協議会 ポ イ ン ト

### 1. 交通状況等

#### 1) 来場者数

○H27年(火):約7万人 (H26年(日):約17万人、H25年(土):約20万人)

○大雨と高波の影響により、平成18年以来9年ぶりの延期となり、不安定な天候の中での開催。

#### 2) 交通状況

<行き>

○一時的に1～2kmの渋滞は発生したが、和歌山方面(尾鷲→熊野)は、一日を通して、継続した渋滞は発生せず。

・和歌山方面(尾鷲→熊野):最大約1km(13時台)

・名古屋方面(新宮→熊野):最大約2km(11時台)

<帰り>

○国道42号の交通規制解除後、名古屋方面(熊野→尾鷲)では、木本町交差点を先頭に約3kmの渋滞が発生。0時過ぎまで継続。

### 2. 今年実施した対策の評価

交通量の全体量が少ない中でも、今年度実施した対策の改善が確認された点と新たな課題は下記のとおり。

#### 1) 熊野尾鷲道路の通行規制について

○和歌山方面(尾鷲→熊野)へ向かう交通量のピークが通行規制開始前の8時台となり、自家用車の早めの来場・交通分散を促し、施策が浸透。

○平日開催のため、通勤・物流面等に配慮し、名古屋方面(熊野→尾鷲)を全車両通行可にしたことで、閉鎖した途中ICでのUターンや下車する車両が発生し、安全性が課題。

#### 2) 会場付近の交通円滑化

○荷さばき車両等による路上駐車を原因とした渋滞は、警備員や学生ボランティアによる駐車管理(荷さばきスペースの設置・運用の徹底)が実施されたことに加え、信号現示の変更等により、会場付近の国道42号の1時間あたりに流れる車の量が最大1.4倍に増加し、円滑性が向上することにより、渋滞抑制に効果。

○熊野市駅口交差点へのバスの進入経路の1本化を図ったが、16時以降は歩行者が多く、遅い時間帯に到着するバスの通行は安全性が課題。

### 3) ツアーバス利用者アンケート

○2回目以上の来訪者のうちツアーバスに乗り換えた利用者は約3割であるとともに、8割は再来訪時もバスで来場すると回答。

### 4) 交通規制図(プログラム)・イベント

○4割以上の来訪者が、駐車後に入手しており、交通規制や駐車場位置を事前に知っていただくことが今後の課題。

○観光案内地図により到着後の過ごし方に影響があるという回答が約5割あり、プログラムやイベントの更なる充実や案内誘導の強化が必要。

## 3. 今年判明した主な課題

### 1) 熊野警察署前交差点を起点とした県道34号の渋滞

○シャトルバスを降車した歩行者の横断により左折車の通行阻害による渋滞が発生。

○歩道が無い跨線橋を歩行者が通行することによる交通安全面が懸念。

### 2) 帰りの名古屋方面の渋滞

○花火大会終了後、井戸町交差点において、県道34号から和歌山方面に向かう右折交通が多く、渋滞に拍車。

## 4. 来年に向けた主な改善検討(案)

○安全性・利便性向上の観点から、途中ICの閉鎖方法の改善を検討。

○延期日が平日の場合、熊野尾鷲道路の通行規制実施の有無については、曜日等を考慮し判断。

○来場者の交通分散、ツアーバスでの来場促進を目的に、施策の更なる充実や広報の拡大を図る。

○シャトルバスの降車場の変更により、県道34号熊野警察署前交差点付近の円滑性・安全性が向上するとともに跨線橋を通行する歩行者が少なくなり、安全性の向上が期待。

○ツアーバスの方面別駐車を実施するとともに、それを越えるバスの予約があり名古屋方面からのバスが井戸小学校に駐車せざるを得ない場合は、12時以降国道42号立石南交差点を右折させる運用を検討。

※方面別駐車と合わせて実施することで効果を発揮。

○交通規制図(プログラム)が熊野市に来訪する前に入手できるよう、道の駅やSA等での配布方法を検討。

○ピクトグラム等による観光施設等への案内・誘導の強化。

※通常時の案内誘導にも有効。

○タイムスケジュールがわかるイベント表や観光情報を強化するなど、交通規制図(プログラム)の更なる充実

○待ち時間を快適に過ごして頂くため、イベントの充実や休憩所、物販の改善が必要。

○帰りの渋滞対策については、関係機関により、今後、更なる検討を実施。